

森林生態系の保全

～生物多様性保全と森林環境の再生に向けて～

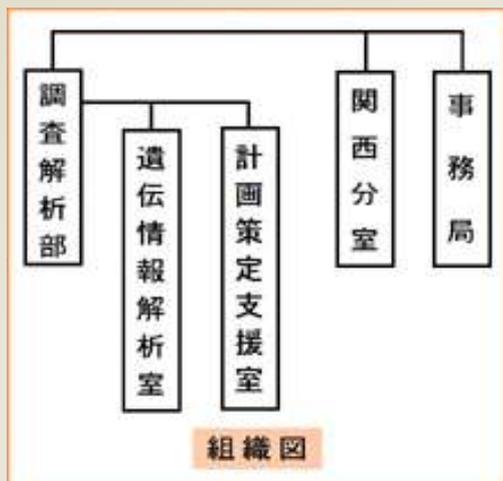
(株)野生動物保護管理事務所 関西分室
濱崎伸一郎



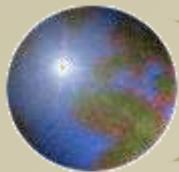
(株)野生動物保護管理事務所の概要



- 創立 1983年（昭和58年） 1月15日
- 設立 1991年（平成3年） 3月15日
- 関西分室設立 1998年（平成10年） 9月 1日
- 職員数 34名（2014年12月現在）
- 所在地
 - 本社 東京都町田市
（技術職：17名，事務職：3名）
 - 関西分室 兵庫県神戸市北区
（技術職：13名，事務職：1名）



- 野生動物管理コンサルティング
- 野生動物調査
- 野生動物対策の技術開発・支援
- 野生動物管理技術の普及
- 技術者の派遣



クマ類の全国分布

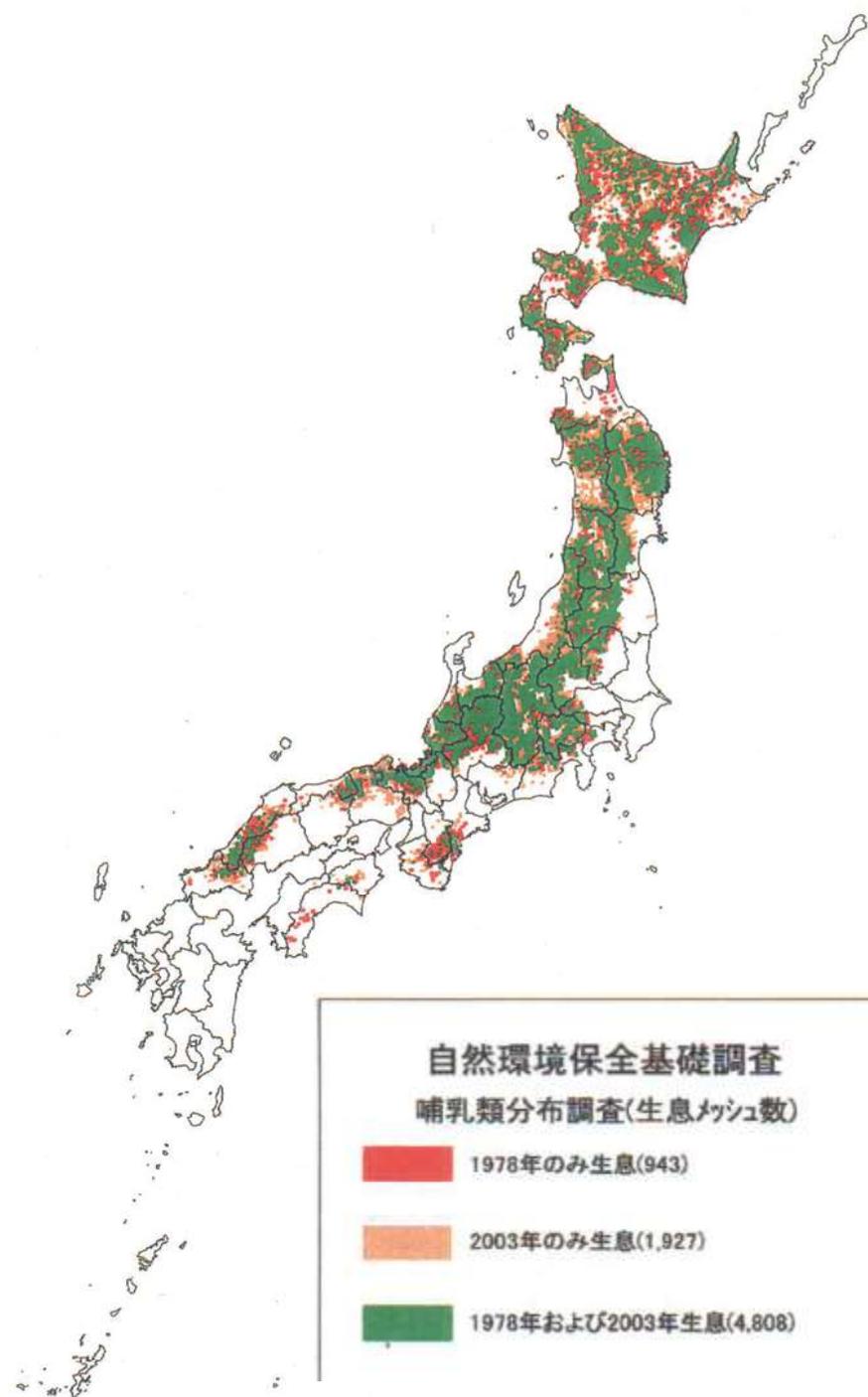


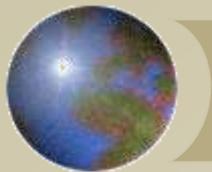
クマ類の分布



25年間で1.6倍に拡大

種の多様性調査哺乳類分布調査報告書
(環境省, 2004) より





絶滅のおそれのある地域個体群 -ツキノワグマ-

絶滅のおそれのある個体群



個体の保護
個体数の維持・増殖
も重要



放獣事業の実施



種の多様性調査哺乳類分布調査報告書
(環境省, 2004) より



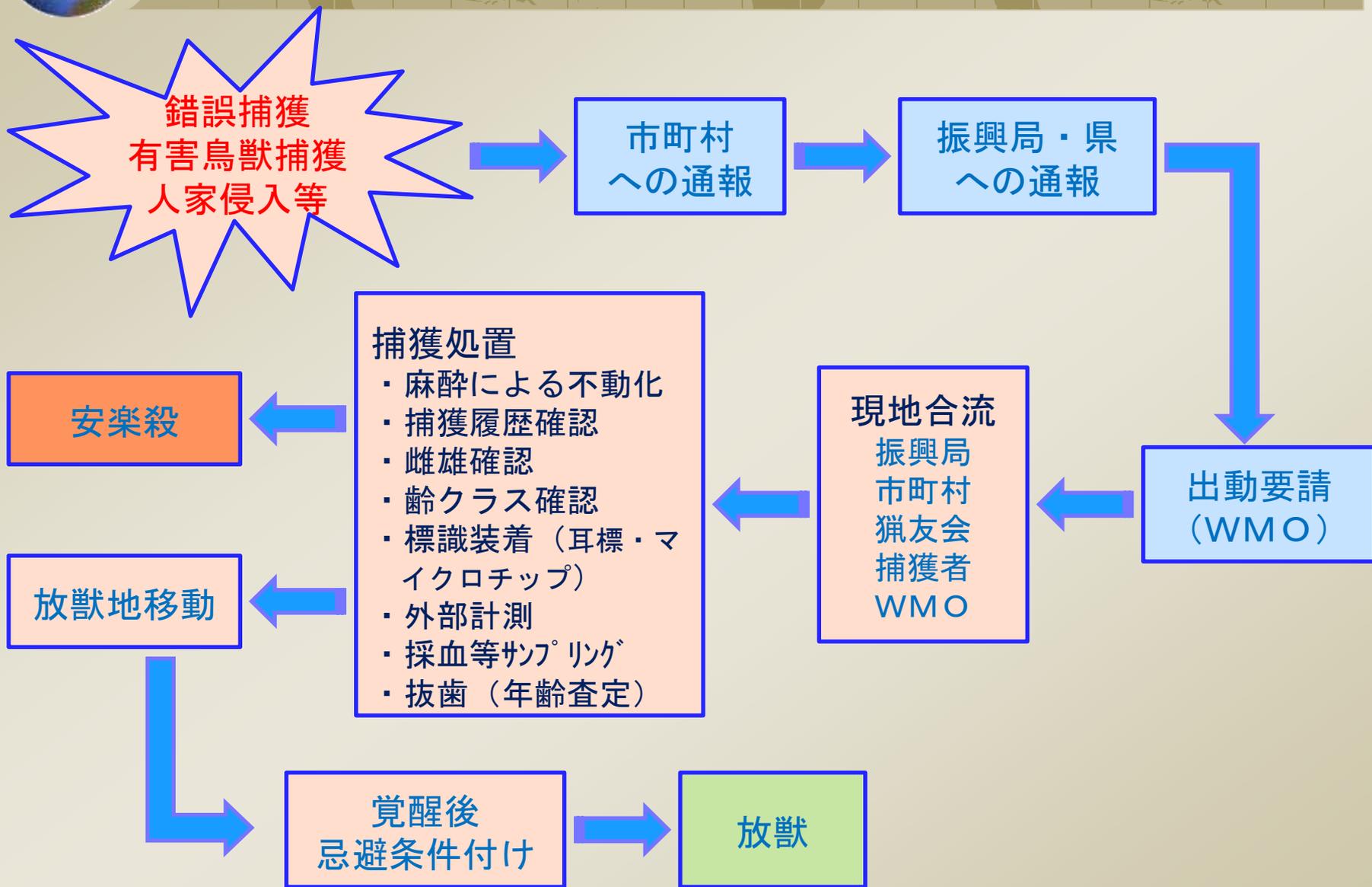
近隣府県のクマ出没時の対応 (兵庫県)

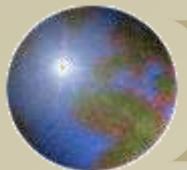
● ツキノワグマ出没対応基準

区分	状況	対応	捕獲後の取り扱い
第1区分	<ul style="list-style-type: none"> ●山中での目撃 ●一時的な人里への出没 	<ul style="list-style-type: none"> ●正確な情報収集・周知 ●入山者への注意喚起 	
第2区分	<ul style="list-style-type: none"> ●被害が発生（精神被害含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ●正確な情報収集・周知 ●誘引物の除去・囲い込み ●追い払い実施 	
第3区分	<ul style="list-style-type: none"> ●繰り返し出没し、被害（精神被害含む）が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ●正確な情報収集・周知 ●学習放獣を前提とした捕獲（ドラム缶檻）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●耳標・マイクロチップを装着 ●電波発信器を装着し追跡 ●忌避条件付けを行って放獣
第4区分	<ul style="list-style-type: none"> ●学習効果が認められない ●人身被害の危険性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ●正確な情報収集・周知 ●殺処分（原則ドラム缶檻による捕獲、危険性が高い場合銃器等を用いる） 	<ul style="list-style-type: none"> ●捕獲個体は標識により捕獲履歴を確認 ●殺処分個体は研究センターにより分析
誤捕獲	<ul style="list-style-type: none"> ●有害鳥獣捕獲または狩猟におけるワナで誤って捕獲された場合 	<ul style="list-style-type: none"> ●捕獲個体は原則放獣（安全性が確保できない場合は県が放獣作業を実施） ●捕獲者に適正な捕獲を指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●原則安全な同一市町内に放獣 ●標識を装着 ●集落・農地周辺の捕獲の場合は学習放獣を実施 ●第4区分個体と判断される場合は殺処分



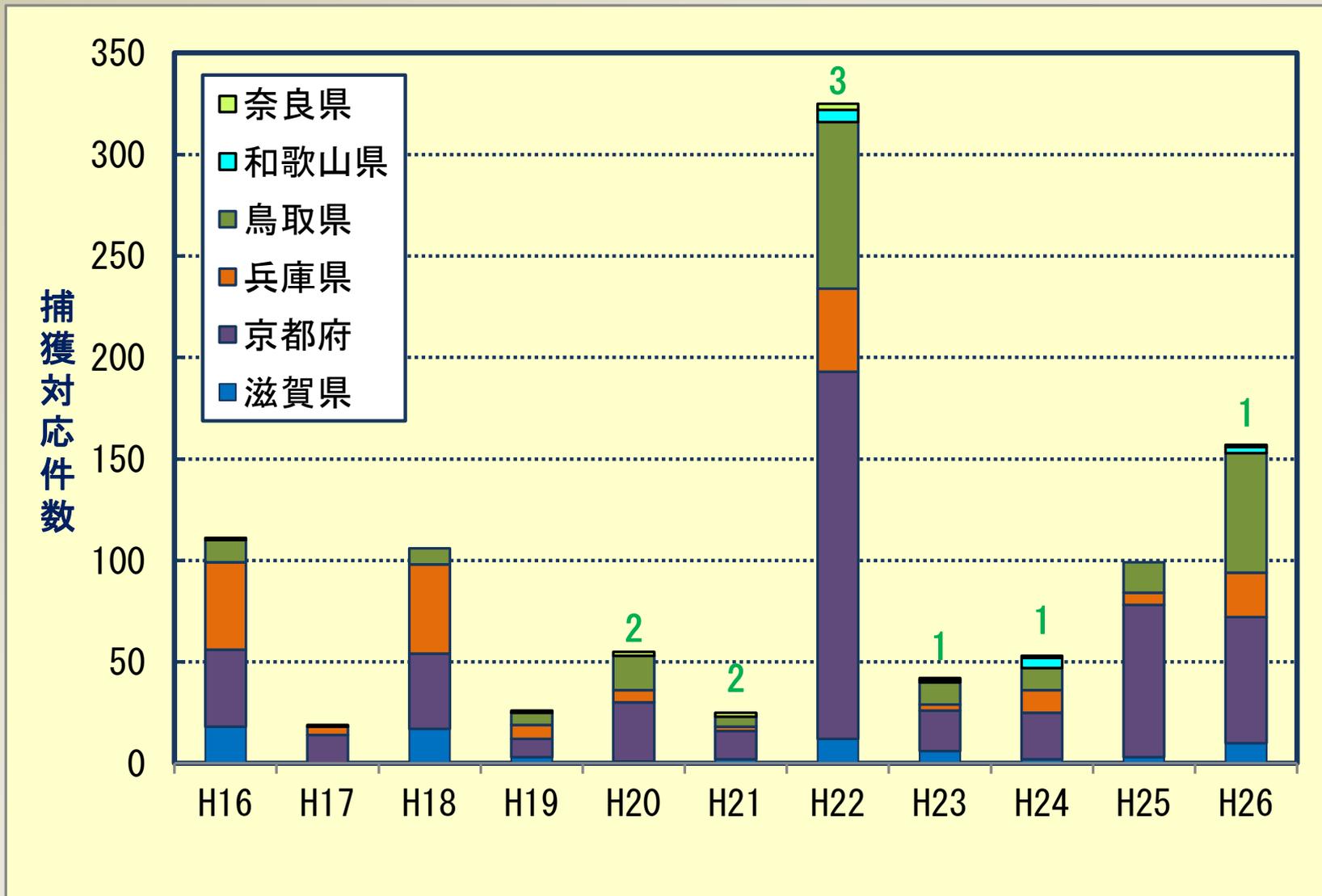
捕獲から放獣までの流れ





クマの捕獲対応件数

(滋賀県・京都府・兵庫県・鳥取県・和歌山県・奈良県)





ツキノワグマの捕獲

-箱罟・ドラム缶檻-



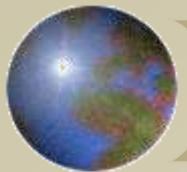
2014/8/12
十津川村旭



ツキノワグマの捕獲

-ククリワナ-

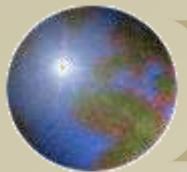




ツキノワグマ捕獲・放獣作業

- 標識装着・確認 -

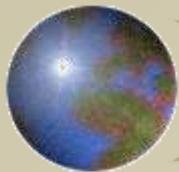




ツキノワグマ捕獲・放獣作業

-外部計測・採血・抜歯-





ツキノワグマ捕獲・放獣作業

-移動・放獣-

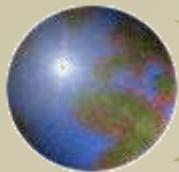


2014/8/12
十津川村旭



2014/8/12
十津川村旭





ニホンジカの全国分布



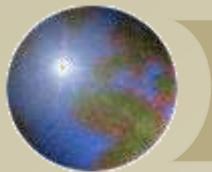
シカの分布



25年間で1.7倍に拡大

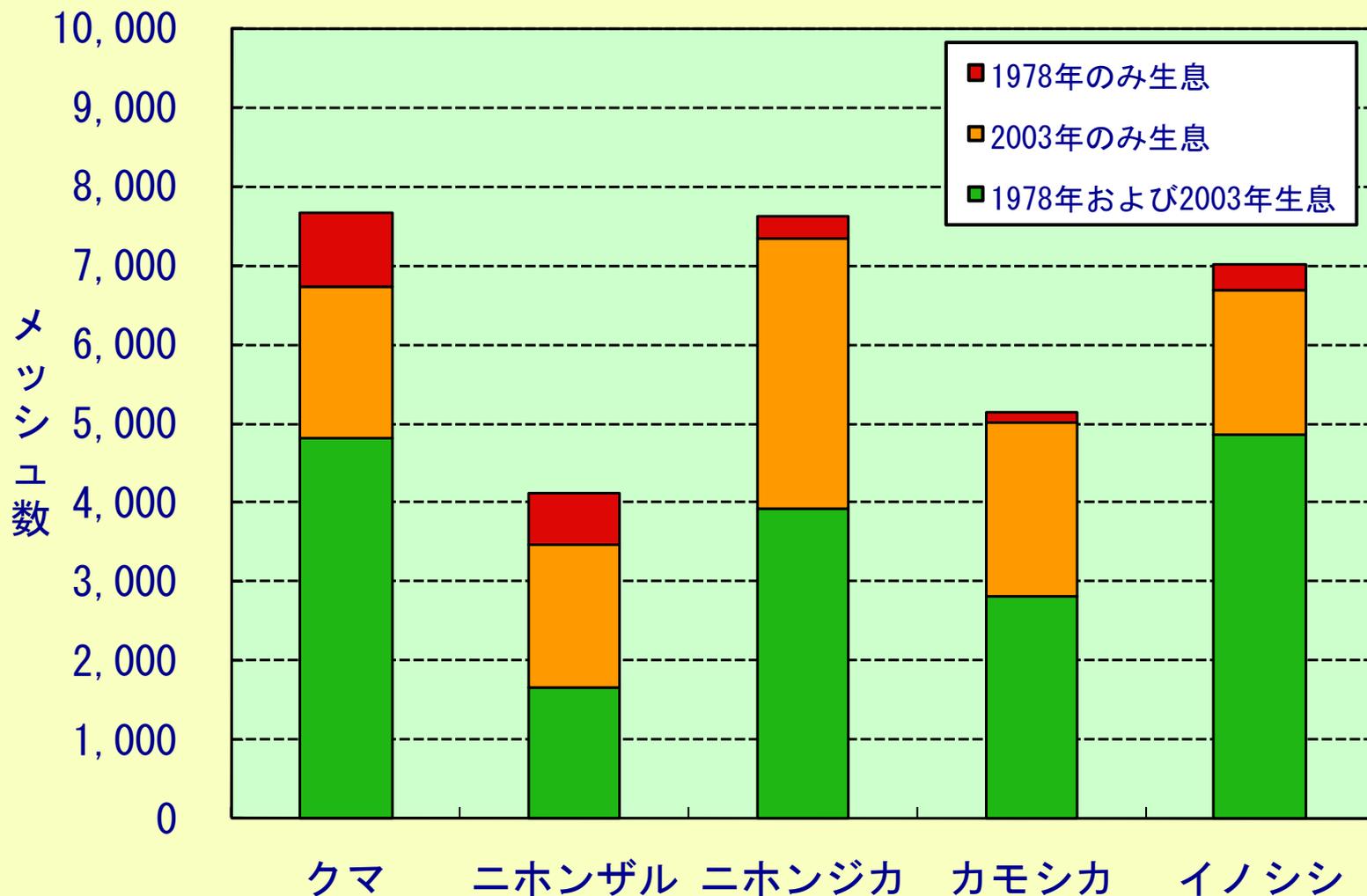
種の多様性調査哺乳類分布調査報告書
(環境省, 2004) より





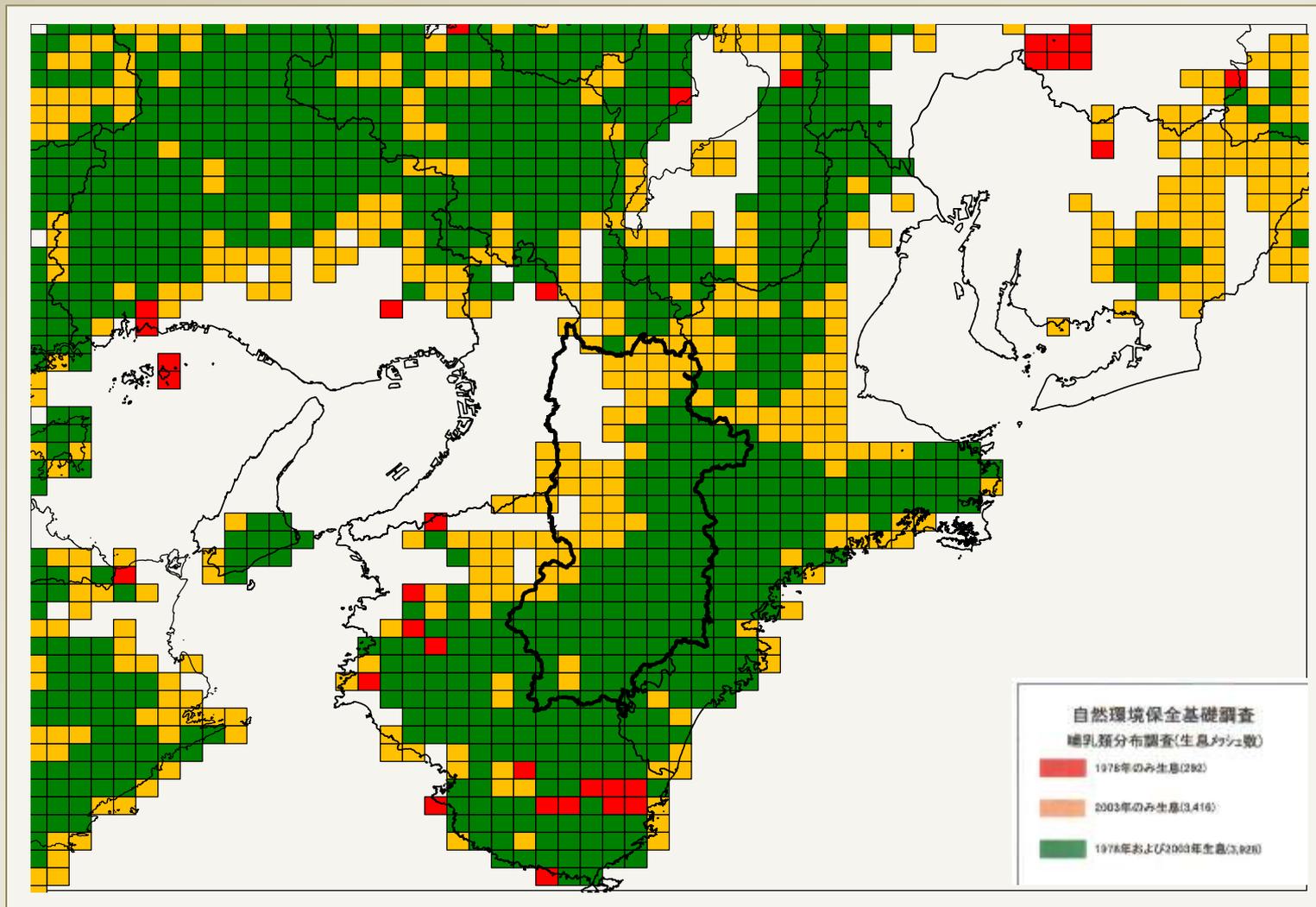
哺乳類の分布変化

-大型哺乳類の分布メッシュ数の変化-





奈良県におけるニホンジカの分布



種の多様性調査哺乳類分布調査報告書
(環境省, 2004)より



シカによる自然植生への影響が深刻な自然公園など

生物多様性保全
への大きな影響



0 250 500km



シカの影響による自然植生への影響



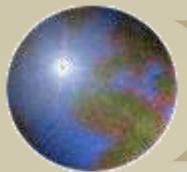
高山・亜高山帯の希少植物群落の退行



シカの自然植生への影響



樹皮食い・下層植生の退行



シカの自然植生への影響



ブラウジングラインの形成・樹皮食い



シカの自然植生への影響

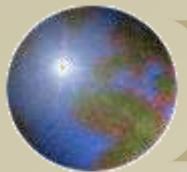


シカ密度低



シカ密度高

下層植生の退行・土壌の流出



シカの自然植生への影響



大台ヶ原正木ヶ原

大杉谷国有林



森林の衰退・乾燥化・土壌の流出・斜面崩壊



水源環境・国土保全上の問題



ニホンジカが増える要因

➤ 生息地の攪乱

◆ 拡大造林

◆ 牧草地，農地の拡大



➔ 栄養状態向上 → 繁殖率上昇

➤ 農林業環境の変化

◆ 集落周辺への定着 → 農作物被害 → 栄養状態向上

➤ 温暖化

◆ 積雪量の減少 → 生息地の拡大

冬季死亡率の低下

◆ 豪雪年の消失 → 大量死の消失

➤ 捕獲圧の低下

◆ 狩猟者数の減少・高齢化

◆ メスジカ捕獲割合の低下



生物多様性保全と森林環境の改善に向けて

多様な生物を育む森林環境の再生

➤ 人工林の健全化

- ◆強度間伐による下層植生の回復
- ◆生育不適地の広葉樹林化
- ◆伐採跡地の適切な管理・土壌流出の阻止

➤ 里山の適切な整備

- ◆里山の利用と手入れ
- ◆鳥獣と人間生活領域の緩衝帯としての機能

➤ シカの適切な管理

- ◆健全な森林の維持が可能な適正密度の評価
- ◆順応的管理による適正密度への誘導
- ◆捕獲従事者の確保と育成（捕獲事業の実施）

➤ 希少植物群落・動物の保全

- ◆パッチディフェンス等による希少植物群落の保護
- ◆絶滅のおそれのある種・地域個体群の保全